

Yena sallema otinno disā sabbā vidhāvati,
tam eva sallam abbuyha na dhāvati, nisīdati.

2018/8/9

単語/原型	語尾	品詞	人称	態法時制	数	格 (mn f を記入)								意味
						主	対	具	与	奪	属	処	呼	
Yena / ya	-ena	関係代			sg			mn						関係代名詞
sallema / sala	-ema	n			sg			mn						矢・傷 { ^{ヒキ} ヒキ ^ツ ヒツ ^ニ ヒニ 先行詞
otinno / otarati pp. otinna	-o	a			sg									陥, 迷, 沈, 渡, 先行詞2
disā	-ā	f			sg			f						方向, 方位, 四方
sabbā	-ā	a ⁿ f			pl			f						性数格一致で 四方すべて あらゆる方向
vidhāvati / vi + dhāv	-ti		3 現	sg										彷徨する, 走り廻る, 迷う
tam		代名	3 (2)		sg			mn						彼 (あつた) 相関詞
eva		ind.												このみ, 正に, ~でさえ
sallam	-am	n			sg			mn						矢・傷 先行詞
abbuyha / abbuhati a 連続体		ger.												引手抜く, 抜き出す ~に
na		ind.												~ない (否定)
dhāvati	-ti		3 現	sg										走る, 流れる
nisīdati	-ti		3 現	sg										坐す, 着全す, (沈み) 沈み込む
ニ・デ・サには na sīdati とおとす多くの先行詞に代り「沈まない」と訳している。														
関係詞と性数一致の相関詞「tam」 ① 関係代名詞文は、先行詞「矢」の説明文 相関詞文は、先行詞「矢」を含んだ主文 関係詞と性数一致の先行詞「salla」は、主文・副文の両方にある ② 関係代名詞文は、先行詞2「陥る」の説明文 相関詞文は、特に先行詞2を含まない主文 ※ ② の方が「関係代名詞文らしい」														
① も ② も どこにも 間違いはないし、文の伝えようとしている意味も変わらない。 したがって、どちらでも良いし、関係代名詞を特に意識する必要がない文。														
関係代名詞 訳し方まとめ (関係代名詞) ・主文相関詞は性数一致の関代と一致で主文にある指示代名詞を見つける。 ・先行詞は性数一致の関代と一致の(名詞・代名詞・他) (主文) どちらか又は両方にある ① 先行詞と相関詞の具体的な名を採り入れ代える。 ② 主文のそれに副文とそのまま代入(修飾する) 格 副文(先行詞)の格と主文中の当該語の格が一致														

訳 ① 矢によって 迷 まされ 四方すべてを走り廻る、その矢をえ抜けば 走らず 着全る。 Ver.0.93
 ② 矢によ、2 四方すべてを走り廻るに陥、た彼は、矢をえ抜けば 走らず 着全る。

ニ・デ・サに從之は
 ~沈み込む。